

(6) Jタワーエリア

①ローエレメント [屋外]

1) モホークウォーク [Jタワーエリア]

- ファシリテーターは様々なリスクを想定し、立ち位置には十分考慮する。
- 手をつなぐ時は、すぐ離せるように指を絡ませないようにする。
- チャレンジャーには飛び込ませない。

2) テンショントラバース [Jタワーエリア]

- 実施前にロープをセットする。また使用後には元に戻す。ロープは倉庫に収納してある。
- テンショントラバースはプレーヤーが360度振り回される可能性があるため、スポッティングの位置に配慮して指示する。
- 設置場所が接近しているため手つなぎトラバースと同時に行わない。

3) 手つなぎトラバース [Jタワーエリア]

- 手つなぎトラバースはチャレンジのレベル（グループの完成度、年齢等）に合わせて、ロープを調整する。またスポッティングは支点方向に振られることを考えて指示する。
- 手をつなぐ時はすぐ離せるように指を絡ませない。
- 設置場所が接近しているためテンショントラバースと同時に行わない。

4) ヒッコリージャンプ [Jタワーエリア]

- 使用しないときは、バーを取り外して倉庫に収納する。
- トラストシーケンスを終えてから使用する。
- 肩などを傷害から守るため、バーにはつかまらずタッチする。
- 隣のホールインワンのガイケーブルがジャンプ方向にあるため、その位置にスポッターを配置する。
- 勢いでバーの先までジャンプすることがあるため、地上のジッパーはバーの向こう側に2人以上並ぶ必要がある。
- Jタワー側が斜面になっているため、移動時、転落などに注意する。

5) ホールインワン [Jタワーエリア]

- 人の体を空中で支えるので、その性格上、トラストシーケンスを終えてから使用する。
- 腹ばいでタイヤをくぐると腹部に圧力が加わり、内臓を痛める可能性があるため注意をする。
- 危険なため、飛び込んでタイヤをくぐらせないようにする。
- Jタワー側が斜面になっているため、移動時、転落などに注意する。

6) アイランズ（島めぐり）〔Jタワーエリア〕

- 板を使用するため、足、手などを挟まないように注意する。
- 反動で他の人を跳ね飛ばしてしまうため、ジャンプをしない。
- 自分が台から落ちそうになったとき、他の人を巻き添えにしない。
- Jタワーが近いため、Jタワー使用中は注意をする。

7) 2方向ジャイアントシーソー〔Jタワーエリア〕

- Jタワーが近いため、Jタワー使用中は注意をする。
- Jタワーのガイケーブルが近いため注意する。
- プラットホームの状態を確認して、活動内容を考慮する。

8) ニトロクロッシング〔Jタワーエリア〕

- 使用しないときは、ロープと金具を外して、倉庫に収納する。ロープは、下部にループの付いたものを使用する。
- スイングロープの下部ループに足をかける場合、足の裏のみでかける。
- Jタワー側が斜面になっているため、移動時、転落などに注意する。

9) トラストフォール〔Jタワーエリア〕

- ジッパーラインに対して斜めに倒れることもあるため、大変危険である。チャレンジャーやジッパーに注意を促しておく必要がある。
- このエレメントは、致命的なアクシデントにつながる可能性があるため、実施できるかどうかは考慮する。

10) TPシャッフル（電柱でござる）〔Jタワーエリア〕

- Jタワーが近いため、Jタワー使用中は注意をする。
- 人をまたいで場所を入れ替わる時は、注意を要する。ファシリテーターは、その危険性をあらかじめ予測しなければならない。

11) トラバースウォール〔Jタワーエリア〕

- スポッターの人数はグループがどの程度のスポッティングが必要かにより決まる。チャレンジャーによっては、スポッターが必要でない場合もあり得る。

12) みんなのつかれ

- ※ ロープスコースガイドブック参照

② ハイエレメント〔屋外〕

1) Jタワー〔Jタワーエリア〕

- アクティビティにより、チャレンジャーが登る方向の指示を確実に行う。
- 方向によりビレイロープが柱に絡んだり、落下したときに柱に衝突したりする場合がありますので注意する。
- 他のアクティビティのパラシュートコードやビレイロープがチャレンジャーに絡まないように注意する。
- プラットホームに立った場合、降りるときにロープが絡まないように、下降する位置に注意する。
- チャレンジャーが下降するとき、エレメントに触れないようにする。
- 丸太のぼりを使用するときは、ボールロックカラビナを使う。

【Jタワーエレメント】

- 丸太のぼり（ゆらゆら丸太）
- ジャイアントラダー
- インサイドクライム
- カーゴネット